

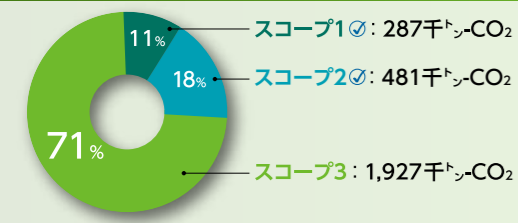
環境

地球環境と共生し、 持続可能な 社会の実現を 目指しています。

日軽金グループは、企業行動の全域にわたり、積極的に環境との調和を目指しています。アルミ製品を通じた環境貢献に止まることなく、自らの生産プロセスやサプライチェーンにおける環境負荷の低減にも積極的に取り組んでいます。



FOCUS 日軽金グループ温室効果ガス排出量



スコープ1：企業が直接排出する温室効果ガスの排出量
 スコープ2：電力などエネルギーの使用によって企業が間接的に排出する温室効果ガスの排出量
 スコープ3：企業がサプライチェーンで間接的に排出する温室効果ガスの排出量
 ④：記載情報の信頼性を保証するために、KPMG あずさサステナビリティ(株)による第三者保証を実施しています。

環境基本方針

環境問題は地域的な問題にとどまらず、地球環境さらには人類の生存基盤にまで影響を与えかねないまでに拡大化、深刻化しつつある。そうして、地球環境と共生する社会、持続可能な循環型経済社会の構築に向けての取り組みが、国、自治体、市民、そして企業に求められている。そのような認識のもと、日軽金グループは、企業行動の全域にわたり、積極的に環境との調和を目指す。

このことは、当社の存立基盤である株主・取引先・従業員・地域社会を守り、そして健全な事業活動へとつながる。

さらに、環境に関する社会的な貢献活動を通じて、良識ある企業市民として真に豊かな社会の実現に努力する。

温室効果ガス削減自主行動計画

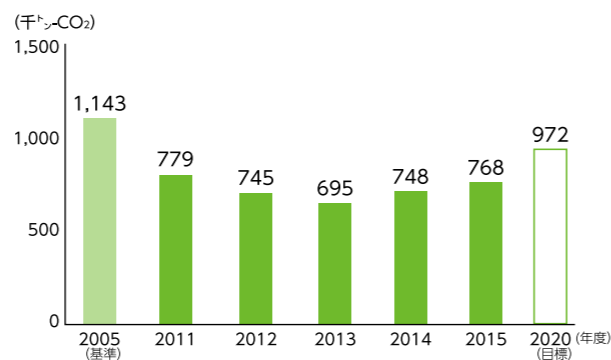
日軽金グループの2015年度の温室効果ガス排出量は、前年度比約3%増の768千 t-CO_2 となりました。増加の原因は、生産量の増加、電力の CO_2 排出係数^{*}の上昇、およびグループ会社の増加によるものです。なお、温室効果ガス排出量の売上高原単位は省エネルギーの取り組みなどの結果2.09 t-CO_2 /百万円となりました。

※排出係数

電力：電気事業連合会公表の前年度使用端 CO_2 排出原単位
 (2010、2011年度はクレジット反映後)

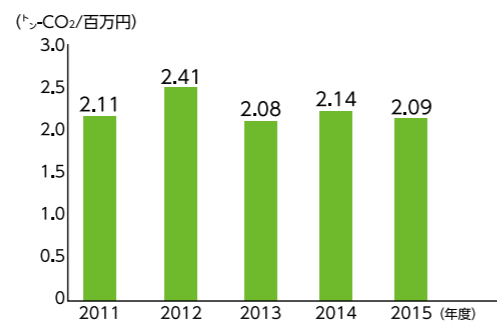
燃料：「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」の各燃料の単位当たりの発熱量と熱量当たりの CO_2 排出量

温室効果ガス排出量



※日本軽金属(株)蒲原製造所の水力発電についても、電気事業連合会公表の前年度使用端 CO_2 排出原単位を使用して実績値・目標値を算出しています

温室効果ガス排出量の売上高原単位



生物多様性保全活動

日本軽金属(株)清水工場では、事業用水として海水や工業用水を使用しており、使用後は排出基準を満たすことを確認し、排水路を通じて直接海に排出しています。排水路には海から上ってきた魚などが見られましたが、これまで定期的な観測などは行っていませんでした。そこで、排水が生態系に与える影響を把握するため、主要な排水路において魚の存在と水温や水質(pH)の観測を2015年より開始しました。



清水工場排水路の魚の様子

日軽金グループでは、このような生物多様性保全活動をグループ全体で推進するため、2016年2月に「日軽金グループ生物多様性ガイドライン」を策定しました。

日軽金グループ生物多様性ガイドライン(抜粋)

基本方針

日軽金グループは生物多様性の保全および生物多様性の構成要素の持続可能な利用のため次の取り組みを行う。

- ・事業活動が生物多様性に及ぼす関わりを把握するように努める。
- ・生物多様性に配慮した事業活動を行うことなどにより、生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、持続可能な利用に努める。
- ・取り組みの推進体制を整備するように努める。

具体的な取り組み

- ・工場・事業場の周囲において、生態系の保護などに配慮する。
- ・地域とのコミュニケーションを図り、連携した活動を行う。
- ・サプライチェーンにおける生物多様性保全を考慮する。
- ・生物多様性に及ぼす影響を配慮する。

TOPIC

ボイラー燃焼ガスによる 中和処理施設を稼働

日本軽金属(株)清水工場で発生する排水汚泥の主成分は、アルミナの原料となる水酸化アルミニウムです。これを回収するために、ボイラーから排出されるガスに含まれる CO_2 を利用した中和処理施設を設置し、2015年より運転を開始しました。これにより、年間590 t の原料回収が見込まれ、資源の有効利用に効果を上げています。また、この設備の稼働によって、年間760 t の CO_2 を吸収しています。



ボイラーから排出されるガスによる中和処理施設

環境に関わる事故・緊急対応

日軽金グループは、環境に関わる事故およびそれに対する緊急対応については、国内外で速報システムを整備・運用しています。

2015年度は、環境に関わる訴訟・罰金・科料はありませんでしたが、2015年5月11日に、東洋アルミニウム(株)新庄製造所において、油が場外に流出する事故が発生しました。流出した油はただちに回収し、被害を最小限に抑えました。また、同様の流出事故が起きないよう、防液堤を高くしたり、地下浸透の防止策を強化したりするなどの対策も完了しました。さらに、同様の設備を持つサイト^{*}にも展開を行いました。

※サイト：環境マネジメントシステムを適用する対象範囲およびその単位

今後に向けて CSR推進計画(2016年度推進項目抜粋)

推進テーマ	主要行動計画	KPI
環境マネジメントシステム	ISO14001:2015版認証移行準備	
人財育成	環境担当の他サイトへの環境現場監査参加	参加人数
環境配慮事業所の推進	高濃度PCB安定器 廃棄物の適正処理	処理登録サイト数
	低濃度PCB保有量把握	PCB含有判明率
地球温暖化ガスの削減	新自主行動計画の策定	温室効果ガス排出量、原単位
生物多様性への取り組み	生物多様性保全活動の推進	活動サイト数
コンプライアンス	水銀汚染防止法・改正廃掃法(水銀の扱い)対応準備	完了率